

事業名	入所施設等事業費	財務コード (事業)	078003
-----	----------	---------------	--------

細事業名	里親推進事業費
------	---------

担当部課室	福祉保健 部 児童家庭 課 児童養護 担当 (内線)	3156
-------	----------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 H15 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託)		
事業の目的	誰(何)を対象に 専門里親研修の受講希望者	その対象をどのような状態にして 研修を受講・修了することにより、専門里親として認定されている。	結果、何に結びつけるのか 被虐待児や障害児などが、家庭の中で安心して暮らせる社会の実現。
	養育里親が被虐待児や障害児など特に支援が必要な児童を養育するために必要な専門知識、技術を習得する専門里親研修を受講する経費(研修受講料、審査代、旅費)を助成する。 ・研修委託先 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 ・認定研修 新規専門里親認定時の研修(3日間) H23 0名(要件を満たす里親の中で、ファミリーホーム事業の立ち上げや日程等の都合で参加者なし) H24 1名 ・更新研修 専門里親登録更新時の研修(2日間、2年毎の更新) H23 2名 H24 2名(予定)		
事業の内容 ※主に 23年度			
根拠法令等	専門里親研修制度の運営について 里親制度運営要綱		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	22年度	23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 専門里親研修(認定・更新)の受講者数	2名	4名	2名	3名	3名	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考にした。 データの出典等 予算見積書
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		50.0 %			
成果指標 成果指標達成率 (実績値/目標値)						成果指標 目標設定の考え方 データの出典等
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		%			
決算額、予算額 (千円) うち一財額	133 77		79 42	154 77	156 78	成果指標によらない成果 児童虐待の増加により、専門的ケアを必要とする児童が増えており、専門里親研修を受講することにより専門里親は高い養育技術を習得し、里子の抱える不安や試し行動等の問題行動を軽減させる対応ができ、愛着関係を構築し、精神的安定を図ることにつながっている。
所要時間(直接分)	7 時間		7 時間	7 時間	7 時間	
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間	
所要時間計	7 時間		7 時間	7 時間	7 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	14		14	14	14	

III これまでの事業の見直し・改善状況

なし

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること 専門里親認定研修、更新研修ともに要件を満たす里親の中からファミリーホーム事業(受託できる児童の数が多くなるなど、里親を拡大したもの)を立ち上げた人がいたため、予定していた活動量の50%となった(専門里親はファミリーホーム事業を実施できない)。本事業に関しては、都道府県が実施主体(委託可能)となり、継続して専門里親を養成(更新)していく必要がある。過去の活動量を勘案し、予定どおりの活動量があると判断する。
c	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること 被虐待児や知的、発達障害等を持つ障害児など専門的ケアを必要とする児童が増えており、専門的知識や高い養育技術を習得した専門里親を増やしていくことは重要である。被虐待児は精神不安定な状態も多く、実際、里親への委託には時間を要する場合も多いが、専門里親のもとで専門的ケアを受け、不安や試し行動等の問題行動を軽減させ、愛着関係を構築し、精神的安定を図るなど、意図した成果はほぼ上げている。
	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
有	専門里親認定研修について、平成23年度は、IV(1)に記載した事情により受講者がいなかったが、被虐待児や障害児などが家庭の中で安心して生活していくための担い手として、新たな専門里親を継続して養成していくことが重要である。そのため、対象となる養育里親を抽出し、受講を促す働きかけを行い、計画的に専門里親を養成していく必要がある。	b

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	被虐待児や障害児などが家庭の中で安心して生活していくための担い手として、新たな専門里親を継続して養成していくことが重要であるため、対象となる養育里親を抽出し、受講を促す働きかけを行い、計画的に専門里親を養成していく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。